

平成24年第3回定例会（9月）一般質問

(1) 「いじめ」問題について

2.深刻化させないための対応

○ 議員 宮下裕美子 2.深刻化させないための対策についてです。色々、具体的なお話もありましたが、今度は「いじめ」が発生したと仮定して、問題は「いじめ」をいかに深刻化させないで解決に向かわせることが重要になってきます。そのとき以前の宮元議員の答弁、先ほどの金子議員の答弁でも、日常的に「いじめ」を発生させない未然防止の取り組みが極めて重要であるということでした。しかし「いじめ」を発生させないことばかりに注目し過ぎると発生したときの隠ぺいにつながると考えます。そこで発想転換して「いじめ」の発生は当然あるもの、先ほどの軽微な「いじめ」の対応についても、それは成長過程のものかもしれませんが、かなりグレーボーダー的存在なので、それもとりあえず「いじめ」と認識した上で、ランクを付けるわけではないですが、そういうかたちに置きながら「いじめ」の発生はあるものとして、それをいかに深刻化させないか、あるいはどう解決したかということが教職員や学校にとって評価されるポイントに変換してはどうかと考えます。これは過去の「いじめ」でも指摘されている点で、結局、学校評価が厳しくなり日常の全てが評価につながっていることの弊害があるのではないかと今、色々と言われています。そのことも含めて「いじめ」は当然あるものという視点の変化をいずれは文科省などから指導があるかもしれませんが、それに先駆けて月形町教育委員会として取り組んでいく、検討する方向性はないのか、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 「いじめ」を深刻化させないことについては、多々あると思いますが、ポイントとして先ほどから言っている「いじめ」を発見、察知した際には兆候も含めて見逃さないことで、良くあるケースとして子ども同士を中傷するような発言を教師が容認するというものがありますから、先ほどから言っている「いじめ」の可能性につながるそういう発言、言動、行動を容認することなくということです。そのためには教師自身の感覚を研ぎ澄ませることが大事であると思っています。更に「いじめ」問題を教師が一人で抱え込まないということで、全体のものとして扱うことが必要であると思っています。

合わせて子どもに関わる積極的な対応として、「豊かな人間性、豊かな心」の意識を高めることが極めて大事であると思っています。一見遠回しのような手法ですが、実は直接当たるのが対処療法であって、遠回しのようにただ心を育てていくのが積極的な療法と

捉えています。例えば道徳の時間で多くの活動として学校で培われていくのですが、日常の係活動や班活動、学校行事、運動会、体育大会、学芸会、学校祭など、この中で人間関係を作っていきます。更に旅行的行事として修学旅行、宿泊研修などでも協力すること、我慢すること、心を育てていきます。児童会や生徒会で見られる奉仕活動や社会貢献活動、文化活動、ボランティア活動を通して心を養っていきます。また月形町の読書感想文コンクールはご承知のとおり独自の取り組みであり、特に月形の場合は小学生から高校生まで読書感想文コンクールに取り組んでおります。小学校は新聞社が主催するコンクールで入賞する。中学校では読書感想文コンクールの延長上にある少年主張大会で最優秀賞や優秀賞を受賞しております。また地域では子ども会行事なども有効であると思います。これらの積極的な取り組みがあいまって子ども達の心が育まれ「いじめ」の未然防止もそうですが、深刻化させないことにつながっていくと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今のことは分かったのですが、私の言っている質問にも答えていただきたいのですが、「いじめ」を発生させないことばかりに注目していくと隠ぺいにつながるので、「いじめ」の発生は当然あるものという捉え方に転換することができないかということです。今、教育長が言ったのは宮元議員の答弁でも同じことを言っていますので、それは十分に理解していますので、その上に立って未然防止策の取り組みばかりに視点が行っていないか。そうではなく「いじめ」は当然あるものとして先ほど言っていた軽微のものもカウントする、「いじめ」の段階をステップアップして数を把握するなど、取り組みの視点を変えるのはどうですかという質問をしたのです。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 視点を変えるように常日頃、先生方にもお話していますし、そのようなかたちで学校でも捉えているから金子議員の質問にあった月小だよりに「いじめが起きてしまったから対応するのではなく、『いじめの起こらない人間関係づくり』が大切だと考えています。」ということで、一過性のものがあって保護者に聞くということで、数件になったと思うのです。ですから公表もしているし学校評価のお話もされていましたが、あるからということが大事ではなくむしろ解決に向かう、向かわないかが学校評価ですので、あるものと先生方も認識しているし、隠すようなことは常日頃ないようにしております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 認識の違いかもしれませんが、あるものと捉えて先ほど言たいじめの対応の細かな項目で見れば、ボーダーを「いじめ」と軽微な「いじめ」があり得ると

いう捉え方で数字をカウントすれば、相当数のものが上がってくるのではないか、私は自分の子どもの教育現場を見るなど子育てに拘わりながら、そのように感じているのですが、現実的には教育委員会から最近は何年間にいくつかあったと言われましたけれど、以前から18年が境と言っても以降もしばらくほとんどない状況で推移してきていますし、報告が上がっているといってもこのこと自体がきちんと提示されているわけでもありませんし、視点をきちんと変えているというそれがきちんとしたかたちなどに表れるように「いじめ」の学校側の認識が変化しているという保護者や子ども達に分かるように、例えば数値が変化する、先生方の言動が変化する、行動が変化するということが必要になると思いますが、私はそこを感じられないのですが、教育長いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 先ほどから言っているように指導しているということで、今後、より一層、必要であれば検討させていただきます。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 そうしましたら2.深刻化させないための対策としてもう一点、提案を含めて質問させていただきたいのですが、先ほどの金子議員の答弁で家庭へは学校の対応、報告、継続的に情報の共有を図っていると言っていました。これはいじめられた側の子どもに対して取っている対応であると聞こえました。「いじめ」の対応にもよりますが、多くの場合一对複数の構図になることが多いですが、それらに対してはどのように対応するのか。例えば保護者全体に対して協力を依頼する。あるいはもっと広範な考え方で月形町の地域特性を生かした方法なども検討してはどうか。月形町は先ほどから出ている地域コミュニティが存在し様々なかたちで保護者だけでなく地域の皆さんが子育てに関わってきています。縦横が密な関係を利用して保護者や地域へ協力依頼をするなど、広範な総合窓口としてその人達から情報提供してもらい、あるいは「いじめ」られている子どもが自尊心を高められるように挨拶運動や声かけ運動に協力してもらいなど、様々な取り組みができると思いますが、深刻化させない方法として月形町独自にやれる地域コミュニティを活用したものができないのか、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 今、ご指摘のお話も国や道の支援室に課題が上がっていると思いますし、一番、大事なことはこのことが当該の周りの子ども達の心に傷を付けることをしないよう配慮することです。特に大きな空間であればいいと思いますが、北海道は広くないということもありますので、子ども達や保護者の知られたい権利も十分に配慮して、国、道と連携、協議して検討させていただきます。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、教育長が答えたのは一般論であると思いますが、月形町の場合は兄弟がたくさんいて一つの学年で起きたことが他の学年の噂になって、いくら学校が伏せても様々なところで皆さん関連しているため、実態のないものも含めて展開していきます。それは顔の見える関係が密であることは、悪い面だけではなくていい面もあって、きちんと地域や保護者に説明、協力を仰ぐことにより、全体としてより早く解決できることもあると思います。今、一般的に行われているのは、プライバシーの問題あるいは都会的な手法で学校のことは外には漏らさないということで、学校内だけで解決しようとしていて、本来、月形町の特性である実態を十分、理解しないまま、なぜかうまくいっていないのではないかと感じるがありました。そういう意味で先ほど言ったように地域コミュニティという言い方が分かりづらいかもしれませんが、月形町の特性として関係が密で様々な方面でみんな協力し合える方々に協力を仰ぐ具体的な方法はそれほどプライベートな話に絞らないまでも、「いじめ」の発展防止のために挨拶運動や声掛けをして、みんなが子ども達を大事に思っている、どこかによりどころがあるという自信を付けさせる運動を地域ぐるみでできるのではないかと。もし学校で問題が起きたときには、ある程度範囲を決めて保護者に情報をオープンにしながら協力依頼することも可能です。いわゆるとおり一遍な都会的手法ではなく、地域に根ざした方法があるのではないかと考えるのですが、そのことを教育長はどのように考えているか、お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 仮にということだったと思いますが、前段の学校が情報を伏せたとしてもということは、私としては答えられませんので、前段はコメントできませんし、不適切かなと思いますが、月形町の特性である親と子ども達が身近な存在であるということで、今も交通安全や挨拶運動をやっておりますので、このことはより一層、充実させていきたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 答えられないということで、それは理解しました。今、交通安全と挨拶運動のことを言われていましたが、交通安全のための挨拶運動をするのではなく、「いじめ」対策にも挨拶運動は有効であることを知らしめることが、この問題の解決につながると思うので、交通安全のためだけにやっているというのではなく、このようなことがあったから挨拶運動で声掛けしてもらえませんかという提案は、あればより一層、成果が上がると思いますので、その点は現状に満足しないでぜひやっていただきたいと思います。